

# 生徒会活動を通した集団づくり

## — リーダーの資質を中心として —

The Production of Groups through Student Council Activities;  
Focusing on the Leader's Nature

大 森 竹 仁\*      林   尚 示\*\*  
OMORI Takehito   HAYASHI Masami

**要約：**本研究は、生徒会活動を通して集団づくりをすることを目指す一連の中で、特にリーダーの資質について検討したものである。具体的には、大学の学生及び中学校の生徒、並びに中学校の生徒会主任教師を対象とした調査を実施し、その結果をもとにリーダーの資質として重視されている内容を明確化した。この作業により、特別活動で望ましい集団活動を通して人間形成をしていくために、特に特別活動の中での生徒会活動の果す役割が明確化してくる。更には、リーダーの資質に焦点化して研究を進めることにより、今後の学校教育の中で、生徒会活動の教育的効果や教育的価値の再確認に繋がる成果が期待できる。

**キーワード：**生徒会活動   集団づくり   リーダーの育成   資質   能力

## I 問題の所在

生徒会活動は、「生徒の自発的、自治的な集団活動を継続的に展開する」<sup>1</sup>という特質がある。そのため、各学校では、例えば生徒会主任という役職を設定し、他の特別活動の内容とは独自に指導されているケースが多い。生徒会活動は「固有の価値を持ち、集団の単位、活動の形態や方法、時間の設定等」<sup>2</sup>において他の活動と大きく異なるが、他の内容と「相互の関連の下に円滑な運営」<sup>3</sup>を進めることによってその教育上の効力を最大限に発揮できると考えられる。

「生徒会」という用語を含む先行研究は国会図書館のデータベースによると過去10年間に60件ある<sup>4</sup>が、その中で、「リーダー」という用語の含まれるものは、ゴシップ記事的な内容の1件を除いては存在しない。また、過去50年間の先行研究を調べると、「生徒会」という用語を含むものは114件存在する<sup>5</sup>。その中で「リーダー」という用語を含むものは、ゴシップ記事的なもの以外には2件あり、生徒会リーダー研修会に関する事例報告と、集団の自治における「核・リーダー」の問題点という記事である。先行研究との比較において、本研究は、数少ない生徒会活動でのリーダーに関わる研究の中で、リーダーの資質の分析に焦点を当てたものとしての特色がある。

本研究の目的は、大学の学生及び中学校の生徒、並びに中学校の生徒会主任教師を対象とした調査を通して、リーダーの資質について考察を深めることである。そのため、本研究は、大きく分けて、次の2つの調査で構成される。1つ目の調査は、特別活動の内容の

\*甲府市立城南中学校（山梨大学内地留学生） \*\* 教育実践総合センター

1つである児童会・生徒会活動を通して、児童会・生徒会の構成員として代表を選び、また、選ばれながら成長してきた学生の持つリーダーとしての資質についての認識内容を検討した。その際、教員養成課程と非教員養成課程に区分して、児童会・生徒会でのリーダー経験の差異についても分析した。2つ目の調査では、1都市にある全中学校の生徒会執行部生徒と生徒会主任教師を対象として、生徒会の執行部に参加する生徒の意識等について分析をした。

## Ⅱ 調査1 学生対象の調査

### 1 調査1の内容

調査1の実施時期は、2004（平成16）年の5月から6月にかけての時期であり、調査対象としたのは、国立大学法人A大学134名、国立大学法人B大学337名、国立大学法人C大学11名の学生である。対象とした教育人間科学部と教育学部には、それぞれに教員養成課程と非教員養成課程の両課程があり、文教育学部と工学部は非教員養成課程である。なお、今回の調査では、教員養成課程は、教員免許取得のための単位が必修となっている課程としている。

調査対象とした学生のうち、教員養成課程は217名、非教員養成課程は265名であり、対象の学生の総数は482名である。

調査項目は、次の2つあり、1つ目は「小学校・中学校・高等学校での児童会・生徒会の会長・副会長の経験の有無」について、2つ目は「リーダーの資質」についてである。この質問を通して、リーダー経験とリーダーの資質についての認識の関係を探ってみた。

### 2 調査1の結果

教員養成課程と非教員養成課程に区分して、それぞれの児童会・生徒会の会長・副会長の経験の有無を図1に示す。

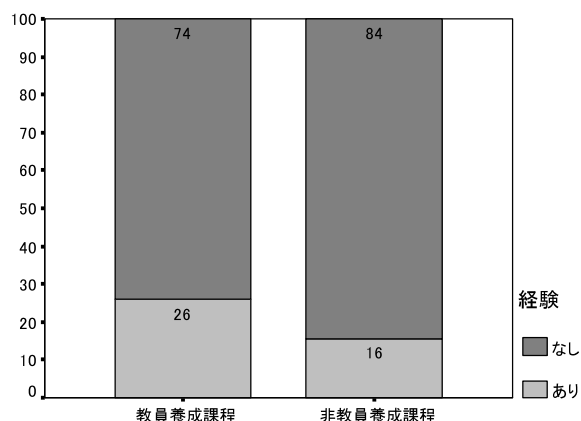


図1 課程と児童会・生徒会経験 (%)

図1によると、教員養成課程の学生の26％、つまりおよそ4人に1人は小学校から高等学校までの時期で、児童会・生徒会長の会長または副会長の経験があることになる。これに対して、非教員養成課程の学生の児童会・生徒会の会長・副会長経験者は16％、およそ6人に1人の割合である。

課程と児童会・生徒会の会長・副会長経験について、特色ある結果が出ている。今回の調査では、1％水準で有意差があったため、教員養成課程に進学した学生は、非教員養成課程に進学した学生と比較して、大

幅に児童会・生徒会の会長・副会長経験者が多いといえる。なお、児童会・生徒会での会長・副会長経験者が教員養成課程に進学しているのは、児童会・生徒会主任教師との関係にも注目できると推測できる<sup>6</sup>。

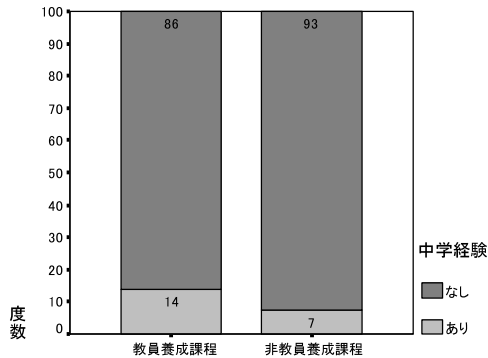


図2 課程と中学校生徒会経験 (%)

教員養成課程の学生の14%が中学校段階で生徒会長・副会長の経験がある。これは、非教員養成課程への進学者との比較では、倍の数字である。中学校で生徒会長・副会長を経験している学生の実数は46名、経験していない学生の実数は402名である。よって、中学校段階で生徒会長・副会長を経験している学生の平均は約10%である。

この調査では、中学校段階で生徒会長・副会長の経験のある学生が、教員養成課程に進学する割合が非教員養成課程よりも多く、5%水準で有意差があった<sup>7</sup>。

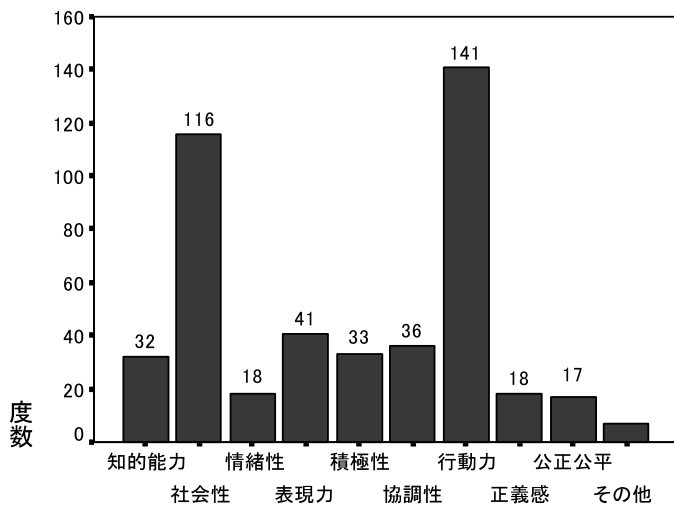


図3 リーダーの資質10類型の人数 (名)

今回の調査では、学生から回答のあったキーワードを「知的能力」、「社会性」、「情緒性」、「表現力」、「積極性」、「協調性」、「行動力」、「正義感」、「公正公平」、「その他」に区分した。その結果、区分できたのは459名、欠損値は23名である。量的には、図3に示すように、全体としては、「行動力」や「社会性」を指摘する学生が多数存在した。

次に、「その他」を含めた10類型と中学校段階の生徒会長・副会長経験の有無との関係を調べてみた。その結果を図4に示す。中学校生徒会長・副会長経験者にはリーダーの資質として、「意見表明力」、「自己表現力」、人をひきつける「魅力」等に代表される「表現力」を指摘する学生が多数存在する。「表現力」を指摘した学生の総数は39名であるが、そのうちの10名が中学校生徒会長・副会長経験者で、百分

率では、約26％となる。

中学校生徒会長・副会長経験者には、学級や学年の枠を超えて望ましい集団活動を組織していこうとする場合等、リーダーの役割を果たすためには、集団に埋没するのではなく、自己の意見を適切に表現できることの必要性が認識されているのではないだろうか。

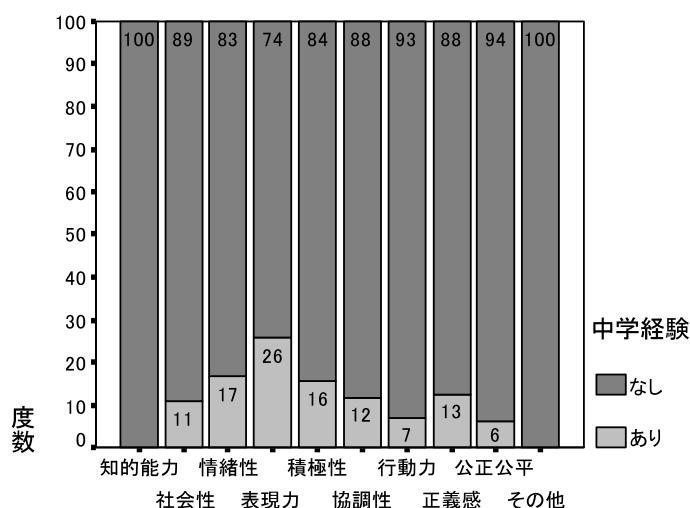


図4 10類型と中学校生徒会経験 (%)

また、中学校生徒会長・副会長経験者では、リーダーの資質として「知的能力」を指摘する者が今回の調査では存在しなかった。当事者の意識の上では、「知的能力」以外の資質への着目が強いようである。しかしながら、生徒会長・副会長非経験者の回答や後半の調査2の結果を考慮すると、「知的能力」についてはむしろ潜在的な面で影響が捨てきれないようにも考えられる。

### 3 考察

リーダーの育成に向けて学生対象の調査を分析すると、10類型のリーダーの資質のうち、生徒会の会長・副会長経験者は「表現力」を指摘している。

全校の生徒をもって組織し、学校生活の充実発展や改善向上を目指すためには、生徒会の会長・副会長経験者が指摘する「表現力」は必要不可欠なリーダーの資質であろう。

しかしながら、リーダーの資質である「表現力」は、生徒会活動だけで形成されるのではなく、「学級活動・ホームルーム活動」や「学校行事」においても教師の適切な指導の下、児童・生徒に獲得させたい能力であり、また、理想的には全ての児童・生徒がリーダーの役割を果たせるような教師の指導が求められるのではないだろうか。

## Ⅲ 調査2 中学校の生徒及びに中学校の生徒会主任教師の調査

### 1 調査の内容

「リーダー」という言葉には幅があるので、本研究では生徒会執行部（特に生徒会長、副会長）に絞り、生徒並びに生徒会活動を指導する主任教師に調査を行った。また、比較対象とするため、所属校に協力を願った。調査内容は次の通りである。

#### (1) 実施時期

5月中旬から6月上旬に実施。

#### (2) 調査対象

①K市市内全中学校（国公立立計14校）の生徒会主任教師及び生徒会会長・副会長

## ②K市A中学校三年生（計171名）

### (3) 調査内容

- ①教師用 a 担当教師について：学年，教職経験数等 b 学校や生徒会執行部について：生徒数と学級数，執行部人数構成等 c 求めるリーダーの資質<sup>8</sup>：性格，「行動力」，「協調性」等30項目
- ②生徒用 d 求めるリーダーの資質：性格，「行動力」，「協調性」等30項目（自己評価）  
e リーダーの経験：7つのリーダー経験有無

### (4) 分析方法

分析に当たって，質問項目c及びdは9観点に分類し数値化した。また，質問項目eも2グループに分類し数値化した。なお，分析の視点として2つの視点を考えた。

- ①教師と生徒会執行部：指導に当たる教師と生徒会執行部のリーダー像の比較を行い，指導する側とされる側の関係を探る。
- ②生徒会執行部と学年生徒：生徒会執行部として活動する生徒像を導き出す。
- 以上の視点から，リーダーに求められる資質について考察を行った。

## 2 調査2の結果

### (1) 市内中学校の状況について

表1 K市中学校の種類と学級数

区 分	学 校 数	総学級数
公立	10	～11：1校 12～18：9校
国立大学法人附属	1	12
私立（附属高校有）	3	X：12（S22開校女子） Y：9（H5開校共学） Z：6（H8開校共学）

市内には14校の中学校がある。公立中学校の大半は適正規模に属する。私立中学校の2校は平成になり開校された。公立以外の中学校は市外にはなく，市内からも一定割合の生徒が進学している。

### (2) K市中学校進学者数の推移<sup>9</sup>について

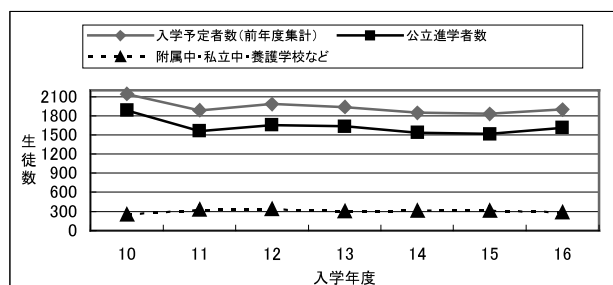


図5 K市入学予定者数と進学先別人数

入学予定者数は減少傾向にある。公立中学校進学者数は生徒の増減と一致しており，公立以外進学者数もほぼ一定となっている。私立及び国立大学法人附属中に入試があるので，市内生徒の学力一定層が進学する。市内の公立中学校進学状況は今後も同じ傾向で続くと推察される。

### (3) リーダーの資質について

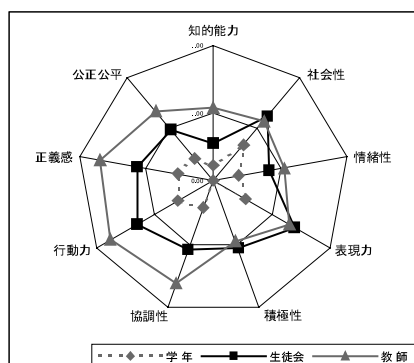


図6 リーダーの資質平均の比較

学年・生徒会・教師の順に値が高くなる傾向を示している。学年と生徒会は全体的にほぼ同じ傾向を示したが、「積極性」において違いが表れた。また、生徒会と教師では、「社会性」と「積極性」の2観点で生徒会が値を上回った。教師は「協調性」、「行動力」、「正義感」等に重きを置く傾向がある。なお、リーダーの資質に関する質問項目と資質分類は稿末に資料を掲載した。

### (4) リーダーの経験について

リーダーの経験を比較すると、生徒会生徒は1・2年生のときから複数のリーダーを経験してきている。特に学級役員については約76%の高い経験率を示した。生徒会長・副会長は1年次から、教師または自らリーダーとしてその役割を果たしてきていると考えられる。

表2 学年生徒と生徒会のリーダー経験の比較<sup>10</sup>

リーダー	学年（171名）		生徒会（42名）	
	経験者数	経験値	経験者数	経験値
① 生徒会執行部（2年生前半）	6	12	22	44
② 学級役員（委員長・副委員長）	44	88	32	64
③ 学級班長	95	95	39	39
④ 林間学校係長	21	21	10	10
⑤ 部活動部長	23	46	8	16
⑥ 合唱パートリーダー	30	30	27	27
⑦ 委員会学年代表	16	16	14	14
平均	1.80		5.09	

### (5) リーダーの資質と経験の相関について

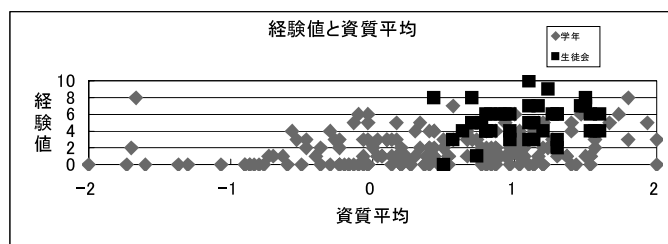


図7 リーダーの資質とリーダー経験の相関

資質と経験の相関について見てみると、学年生徒は広範囲に分布し、資質-1～1.5、経験値0～6に集中している。生徒会生徒は資質0.5～1.5経験値3～8に集中している。全体的に資質及び経験値が高い生徒が生徒会に属している傾向がある。また、



生徒の持つ資質と経験は相互に影響しあっていると考えられる。

## (6) 学力について

表3 生徒会執行部の学力分布（値は％表示）

上位から	～ 25% 以内	26 ～ 50%	51 ～ 75%	76 ～ 100 %
男子	29.8	13.7	4.0	0.0
女子	33.1	13.7	5.6	0.0
合計	62.9	24.7	9.7	0.0

概数<sup>11</sup>であるが、生徒会執行部は高い学力を持った集団で構成されていた。上位25%以内に約63%，ほぼ9割の生徒が学年半分以上に位置している。このことは、生徒会執行部は「学力面で高い能力を持った生徒」を前提条件としていと考えられる。

## 3 考 察

### (1) リーダーの資質について

調査結果（3）より、学年生徒と比較して生徒会会長・副会長は資質の値が高い生徒集団である。特に「積極性」に特徴があり、「表現力」や「行動力」といった面でも高い値を示している。生徒の持っている資質の面もあるが、活動を通して資質が伸ばされていると考えられる。特に、「積極性」や「表現力」、「行動力」等は生徒会活動を行う上で必要不可欠なものであり、活動の立案、提案、実行、反省といった一連の流れを実行していく中で伸ばされていると思われる。教師側からは、「正義感」や「行動力」、「協調性」をリーダーに求める傾向が高い。これは、「学校全体に対する規範や模範となる生徒」を求めて、明確な価値観や実践力、統括力を持った生徒をリーダーとして位置づけられていると考えられる。また、学力的な面は高い必要性を示していないが、実際はかなり高い集団であることから、生徒会執行部を組閣する前提条件に学力はあると考えられる。

### (2) 資質と経験について

調査結果（4）より、生徒会会長・副会長は経験値が学年生徒より顕著に高い。これは、本人自らの意志もあるが、教師側から1年次からリーダーとして育成されてきた面があると推察される。特に学級役員経験率は76%と高い値を示していることから、学級という中集団を統率することや学年行事等を通してリーダーとしての資質が伸ばされたと思われる。調査（5）にも見られるように、資質と経験は関係がありお互いに影響しあっていると考えられ、リーダーとしての自覚の育成にもつながっていると思われる。更には、学年生徒の中にも生徒会生徒と同様、それ以上の高い値を示す生徒が存在している。これらは、学年集団を任されたリーダーであると考えられる。経験を踏まえる中で、リーダーとしての資質を伸ばし、生徒にあったリーダーの場面が設けられていると考えられる。

## IV 結論と今後の課題

### 1 生徒会生徒はリーダーの資質（意識）が高い生徒であった。

これは、生徒会生徒は資質、学力分布共に教師が求める生徒に近い集団である。特に、

「表現力」については大学生経験者から多く上げられた資質であるが、集団に対しての伝達力や統率力の方法として表現が考えられ、生徒会生徒も活動を通してその資質が伸ばされていると思われる。また、特別活動だけでなく、教科でも「表現力」の育成に視点を置くことで、さらに伸ばすことができると考えられる。

## 2 児童会・生徒会執行部の学力は高い。

生徒会生徒や教師の意識は高くないが、大学生非経験者からの結果や実際の学力分布から、執行部を任される生徒は学力が高いことが前提条件になっていると考えられる。これは活動の企画や運営等における計画性や「行動力」、「表現力」に影響があると考えられる。見通しを持って活動に取り組む力、仕事量の多さや煩雑さを上手に工夫する力、活動を集団に伝達する伝達力、限定された指導時間で理解し活動していく力等、学力に起因する部分が大きいと思われる。学力は重みのある資質の1つであると考えられる。

## 3 生徒と教師に、リーダーに求める資質の違いがある。

大学生経験者では「表現力」を多く上げているが、教師は「正義感」や「行動力」等に重きが置かれていた。ここには、生徒と指導者の違いが現れていると考えられる。大学生は経験上「表現力」の大切さを感じているが、教師は集団の模範となる生徒、誰からも認められる生徒として生徒会執行部を描いている。教師の求める生徒像には、家庭教育を絡めた価値観や生活感が含有されている。

## 4 教員養成課程進学者に児童会・生徒会役員経験者が多い。

学力的な面や地域性等の要因も考えられるが、経験が1つの要因になっていると考えられる。1年間という期間、教師と共に学校全体を動かし試行錯誤しながら成長していく中、指導する教師の考えや価値観に触れ、生徒会でしか味わえない感動や達成感を経験する中で、将来の夢として教師を描いたと考えられる。

## 5 リーダーの育成について、場面の設定と評価が今後の課題である。

生徒の活動意欲を高めるためにも、活動する場面と意欲を高める評価の研究や実践が望まれる。特に、指導する教師には生徒の変容がつかめるものの、学級担任レベルまでには生徒会執行部の評価の詳細は伝わってこないことが多い。また、十分な資質や経験があってもなりたがらない生徒が増えていることから、活動の煩雑さばかりが生徒の中で先行している現状がある。多数の生徒をリーダーとして育成するためにも、今後この部分に視点をあてた研究や実践が望まれる。



資料：資質と質問項目

資質	質問項目	資質	質問項目
知的能力	勉強ができる	協調性	友達から信頼されている
	発想が豊かである		思いやりがある
	計画性を持って物事に取り組む		友達と協力して仕事ができる
	忘れ物が少ない	行動力	仕事がきちんとできる
社会性	誰とでも仲がよい		進んで行動できる
	先生の指示をしっかりと聞く		何事にも頑張る
	友達が多い	正義感	善悪の判断がある
情緒性	明るい性格		責任感がある
	優しい性格		友達の面倒をよくみる
	落ち着いている		正義感がある
表現力	楽しい性格	公平公正	学校の規則や決まりを守る
	誰にでも挨拶ができる		まじめである
	自分の意見を言う		人に迷惑をかけない
積極性	話し合いで発言をする		
	授業中挙手が多い		
	活発である		
	係をするのが好き		

## 付記

前半部（概要及び第Ⅰ章、並びに第Ⅱ章）を林尚示が執筆し、後半部（第Ⅲ章及び第Ⅳ章）を大森竹仁が執筆した。

## 脚注

<sup>1</sup> 文部省『中学校学習指導要領(平成10年12月)解説―特別活動編―』、ぎょうせい、1999年、p.18。

<sup>2</sup> 同上、p.18。

<sup>3</sup> 同上、p.19。

<sup>4</sup> 1995年度から2004年8月までの期間について調査した。

<sup>5</sup> 1955年から2004年8月までの期間について調査した。

<sup>6</sup> 例えば、「教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい関係を育てる」ことや、「生徒理解を深める」（学習指導要領総則、生徒指導関連）等の生徒指導にかかわることが、児童会・生徒会主任教師から児童会・生徒会の会長・副会長に十分に影響し、教科指導だけではない教師の職業の魅力に触れることができているのではないだろうか。

<sup>7</sup> これは、次のようなことも契機となっているのではないだろうか。（1）中学校時の発達段階にある生徒たちにとって、生徒会長・副会長は教師の適切な指導の下、望ましい集団の育成を行うため、教師からの豊富な情報が得られる。（2）心身の調和の取れた発達を計り、個人的な資質を育成する段階で、教師との接点が多多くあり、その相互交流の中で、教師が将来の職業モデルの1つとなる。（3）青年前期段階に教師と十分に相互交流できることによって、人間としての生き

方の自覚と自己を生かす能力を教師から十分に獲得でき、それがその後の進路に影響する。

<sup>8</sup> 資質の分類については生徒指導要録や自作資料、質問項目はベネッセモノグラフや『リーダーシップと自己教育力』（熊本大学教育学部附属中学校編，明治図書，1996年）を参考にした。

<sup>9</sup> K市教育委員会調べによる。年度5月末日のデータのため，それ以後の転出入生徒数は含まれていない。公立中学校以外の進学詳細については，今回は一纏めとした。

<sup>10</sup> 集団の規模やリーダーの影響力等から①②⑤を経験＝2，他を経験＝1として経験者数に乗じて経験値と算出した。

<sup>11</sup> 調査対象は生徒会執行部3年生のみ124名（教師調査から）。学力順位は学校毎に基準が異なるので，学校毎実施されている定期試験等を参考に4段階に区分してもらった。